

2014年2月号

2月15日(土)発行

釧路湿原国立公園

温根内ビジターセンター

月刊 温根内通信 No. 209



記録的な少雪…

日本各地で大雪のニュースを見る機会が多いこの冬ですが、北海道東部釧路地方は記録的な雪の少なさです。例年なら一面の雪原になる場所でもヨシやスゲの枯枝が目立ち、少し物足りない気分です。

それでも最低気温は-15℃を下回る寒い日が続き、雪が少ない分、余計に寒く感じられます。温根内周辺に棲むエゾシカは餌が雪で隠れないのか、いつもよりぷっくりしているように感じられます。

～温根内ビジターセンター 木道周辺の自然情報～



【冬でも凍らない湧水】
 湿原の周辺には真冬でも凍らない湧水がたくさんあり、そこには様々な動物が集まります。タンチョウの足跡も湧水の中へと続き、ここで採餌していることがわかります。



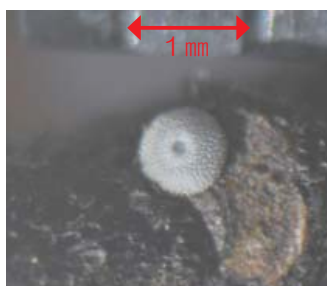
【ウサギの食痕】
 鶴居軌道跡沿いの倒れたヤナギの細い枝をよく見ると何かかじったような跡が見られます。周りの足跡を観察するとエゾユキウサギの食痕であることが解ります。



【シカ道】
 湿原の中をエゾシカが歩く道はある程度決まっているようです。木道を歩くとそんな「シカ道」をあちこちに発見できます。時にはその姿を見る事もあります。



【キツツキの食痕】
 キツツキは木の中にいる昆虫などを食べて生活しています。特に枯れた木には餌になる昆虫がたくさん潜んでいて、森のあちこちで突いて餌を探した跡が見られます。



【ミドリシジミの卵】
 ハンノキの枝をよく観察すると1mmにも満たない小さな白い卵を発見できます。ミドリシジミは卵の状態越冬し、夏にはきれいな姿で私たちの目を楽しませてくれます。



【クモガタガガンボの一種】
 日の当たる雪の上を歩いているクモのようにも見える昆虫ですが、羽がほぼ退化したガガンボの仲間です。生態など詳しいことが良く分かっていない謎の多い昆虫です。

※旬の自然情報についてはお気軽にスタッフまでお尋ねください。

*表紙の写真 上：湿原内のタンチョウ 中左：オオワシ(成鳥) 中右：湧水とタンチョウの足跡 下：百葉箱の中の温度計

～温根内ビジターセンター周辺の鳥～

森の中ではカラ類の混群、開けたところで見上げるとオオワシやオジロワシ、ワタリガラスなどが観察できます。湧水地周辺ではタンチョウの足跡が見えることもあります。冬の良く晴れた日は双眼鏡を持って木道を歩いてみましょう。(貸し出し無料)



【コアカゲラ】
小赤啄木鳥 キツツキ科
模様はアカゲラによく似ていますが、ずっと小さく、コゲラより少し大きいくらいです。北海道東部を中心に生息し、見る機会が少ない留鳥です。



【オオワシ(幼鳥)】
大鷲 タカ科
幼鳥は嘴先端が黒、付根が白く、全体にまだら模様です。翼の前縁は白くなく、尾羽も真っ白にはなりません。冬鳥



【カケス(亜種ミヤマカケス)】
懸巢、檀 カラス科
秋から冬にかけて山から平地に下りて来ます。秋の間に地面に隠した木の实などの食べ物を雪の中から掘り出して食べている姿を見かけます。



【シメ】 鶺鴒 アト科
北海道では夏鳥と言われていますが、温根内では一年中見られます。特に冬に目にする機会が多く、丸々とした体と太い嘴、目の周りの模様が特徴のかわいらしい鳥です。

○温根内木道周辺で観察された鳥(1月15日～2月14日) ※和名は日本鳥類目録第7版の順

■タンチョウ ■トビ ■オジロワシ ■オオワシ ■オオタカ ■ノスリ ■ケアシノスリ ■コゲラ ■コアカゲラ ■アカゲラ ■カケス ■ハシボソガラス ■ハシブトガラス ■ワタリガラス ■ハシブトガラ ■シジュウカラ ■ヒヨドリ ■エナガ ■ゴジュウカラ ■キバシリ ■トラツグミ ■ツグミ ■セグロセキレイ ■ベニヒワ ■シメ

☆☆温根内木道 旬の自然を楽しもう♪「歩くスキーで湿原散策」☆☆

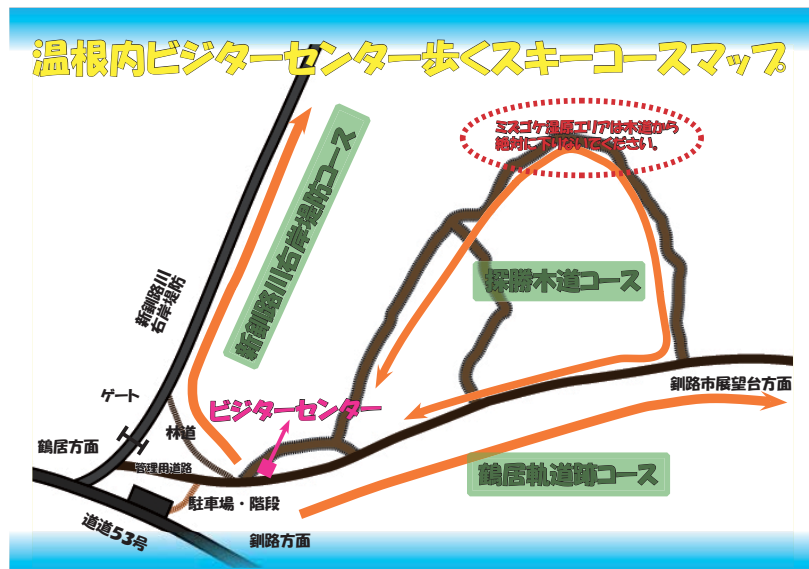
雪の積もった温根内木道周辺では歩くスキーを楽しむことができます。ビジターセンターでは無料で貸し出しを行っているのでお気軽にご利用ください。

探勝木道コース、鶴居軌道跡コース、新釧路川右岸堤防コースと3つのコースがあり、それぞれ違った景色を楽しめます。

探勝木道コースでは湿原植生の遷り変わりが良く分かり、花の咲いている時期と景色を比べながら歩くとより楽しめます。

鶴居軌道跡コースでは湿原と丘陵地の境目の、1968年に全面廃線になった軌道跡(現在は遊歩道)をたどります。

新釧路川右岸堤防コースでは、雪の積もった堤防上の道路(一般車両通行止め)を少し高い位置から湿原を見下ろしながら歩けます。湿原と空の広がりを存分に感じられる眺



めの良いコースです。

これ以外の道から離れた場所は、湿原植生保護のため、基本的にはご利用できません。

積雪の状況によっては通行できない場所もありますので、ご利用の際はスタッフに最新情報を確認してからお楽しみください。

☆☆☆☆☆自然ふれあい行事が開催されました☆☆☆☆☆



○「厳冬の湿原ハイク」

1月19日(日)、パークボランティアの若山氏の案内で、厳冬期の温根内木道周辺で歩くスキーを履いて観察会を行いました。最初のうちは慣れない足元で苦労していた参加者も、徐々に慣れてきて、動物の足跡や食痕、冬でも凍らない湧き水の秘密など、冬ならではの観察会を楽しみました。最後に凍ったスゲ湿原の上にあおむけに寝転んで、湿原と空の広がりを存分に味わいました。参加者：20名



○「歩くスキーで冬の湿原ハイク」(釧路市博物館共催)

2月9日(日)、歩くスキーを履いて温根内木道周辺で観察会を行いました。今回は釧路市立博物館と共催で、昆虫、植物、鳥・ほ乳類担当の学芸員が解説を行い、学芸員ならではの少しアカデミックなお話に参加者の皆さんは耳を傾けていました。特に木道沿いのハンノキ林の中でミドリシジミ(ハンノキに産卵、卵で越冬)の卵を見つけ、昆虫の越冬術の話を知ると、参加者はとても感心した様子でした。参加者：15名

☆☆☆☆☆イベントのご案内(3月) 事前の申し込みが必要です☆☆☆☆☆

○温根内ビジターセンター ⇒お申し込みはこちらまで ☎ 0154-65-2323

♪春を待つ湿原ハイク

〔日時〕3月9日(日) 13:00～15:00 〔定員〕15名(小学生は保護者同伴)

〔参加費〕無料 〔場所〕温根内ビジターセンター

まだまだ寒い季節ですが、湿原の植物たちは春に向けて着々と準備を進めています。そんな春の気配を木道を歩きながら探してみましょう。

○塘路湖エコミュージアムセンター(あるこっと)

⇒お申し込みはこちらまで ☎ 015-487-3003

♪釧路湿原フィールドウォッチング

〔日時〕3月8日(土) 10:00～12:00 〔定員〕10名(小学生は保護者同伴)

〔参加費〕無料 〔場所〕蝶の森(茅沼憩の家駐車場に集合)

雪の残る中、蝶の森で動物の痕跡や植物の越冬術、縄文時代の遺跡などを観察します。

※近隣施設の釧路市湿原展望台の遊歩道が損壊のため一部閉鎖になっております。温根内から湿原展望台まで歩く場合は注意が必要です。詳細は湿原展望台までお問い合わせください。Tel 0154-56-2424



【ミドリシジミ(成虫 オス)】

ハンノキに産み付けられた卵は孵化するとハンノキの葉を食べて育ちます。

月刊 温根内通信 No. 209

発行：釧路湿原国立公園 温根内ビジターセンター

〒085-0036

北海道阿寒郡鶴居村字温根内

Tel：0154-65-2323 Fax：0154-65-2185

E-mail：ovc@hokkai.or.jp

ホームページ：http://city.hokkai.or.jp/~kk946/

開館時間：10:00～16:00(4月～10月は17:00まで)

休館日：毎週火曜日(12/29～1/3は休館) 入館無料